

ある。	
観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>[2] 資料活用能力</p> <p>1. 文書資料（大化の改新）の読み取り 年数の読み取りの正答率は81%である。 大化の改新の正答率は47%で、無答が目だつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料を読み取る際には、その資料の内容が「今から何年前のことなのか」ととらえさせる指導をしておくことが大切である。</li> <li>○ 大化の改新について指導する場合、中大兄皇子、中臣鎌足などの人物と関連づけて指導することが大切である。</li> </ul>
<p>2. 円グラフ（国の予算）の読み取り 円グラフから、租税をとらえる正答率は82%である。社会保障費の基本的な内容の一つとしての老人対策の正答率は69%で、誤答例としては地方自治体への交付金としたものが多い。 円グラフの中の数字の読み取りとして公共事業費の金額を求めたが、正答率は59%で、誤答例としては地方自治体への交付金5.8兆円としたものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 統計的資料を通して社会事象についての理解を深めさせるためには、数値だけでなく語句の意味も理解させておかなければならない。</li> </ul>
<p>3. 統計地図（日本の貿易）の読み取り 赤道の南の国と2.3兆円の輸出入額の二つの条件からオーストラリアを答える問題の正答率は55%であり、誤答例としては、サウジアラビアが多い。これは、赤道の南の国という条件を理解できなかったものと考えられる。 日本の全輸出入額に対する、アメリカ合衆国との輸出入額の占める割合に関する正答率は25%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誤答としてサウジアラビアが多いのは、サウジアラビアの国名の記入位置によるものと思われる。このことに惑わされることがないように、地球儀や地図の指導を強化する必要がある。</li> <li>○ 凡例の読み取りができないために正答率が低くなったものと考えられる。凡例の読み取りを十分指導したい。</li> </ul>
<p>4. 絵（蒙古襲来絵詞）・年表・生育歴（源頼朝）の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵や写真などの資料を使用する場合、指導の観点を明確にする必要がある。この問題で</li> </ul>